■JR御所駅舎の活用方針

資料４

●現況

【立地状況】

・JR御所駅は、明治時代の創建当初の駅舎であり、地域の貴重な歴史資源である。

・近鉄御所駅とともに、公共交通による御所市の玄関口の1つとなっているが、1日の平均乗車人員は589人で通勤・通学の利用が 70%以上を占める（平成28年度）が、利用者数は減少傾向にある。

・平成30年3月に駅西側にICカード乗車券専用の西口改札が開設され、利便性が高まった。

・駅周辺は商業地（商業地域）であるが、駅前立地としては高度利用がなされておらず、商業的な賑わいに欠ける。

【建物状況】

・木造瓦葺平屋建（延床面積 124．42㎡）であり、現況は、待合室、事務所、休憩室などで構成されている。

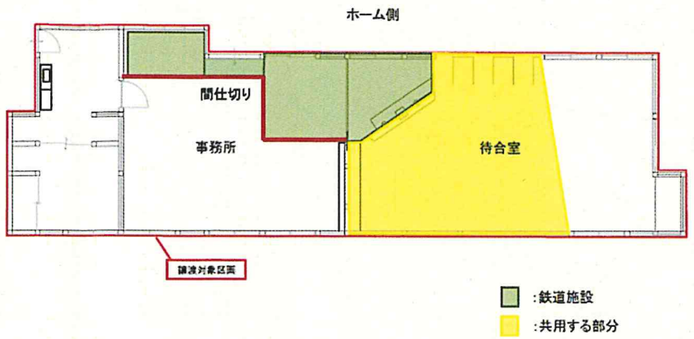
・目視で確認できる限りでは、経年劣化は見られるものの、劣化等による安全面での問題は見当たらない。

・出入口については、現在ホームからのみとなっている。

【関連計画】

・JR御所駅舎の保存活用整備は、御所中心市街地地区まちづくり基本計画の「来訪者を迎える玄関口にふさわしい駅前空間の充実」に係る個別事業と位置づけ、駅利用者、観光客が気軽に利用できる場として、保存整備を行い、駅前の新しい魅力づくりを図る。

◈駅舎平面図



○分析

＜ハード面＞

・新しい活用においては、100㎡以上の規模の用途変更が生じる場合においては、建築確認が必要となる。

・鉄道施設（ホーム等）からの電気配線等があるため、外装等の大規模改修には、JR西日本との協議が必要となる。

・ホームからの出入りを封鎖し、新たな開口部を設ける必要がある。

＜ソフト面＞

・駅の乗降客数や現在の周辺環境などから勘案すると、商業的な需要は少なく、民間活用の可能性は低い。

・駅利用者が待ち時間に利用できる待合室が最も求められている。（アンケート）

★利活用の方針

＜ＪＲ御所駅再活性化検討会議 協働・連携体制＞

○行政、NPO、地域住民、大学との連携、調整を図り、駅舎の利活用案を検討・策定

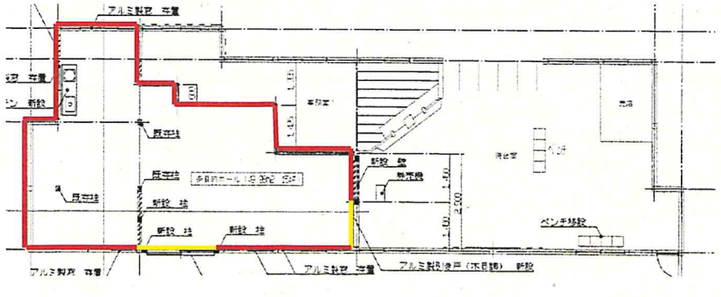
○平成30年10月、関西学院大学と連携協定を締結

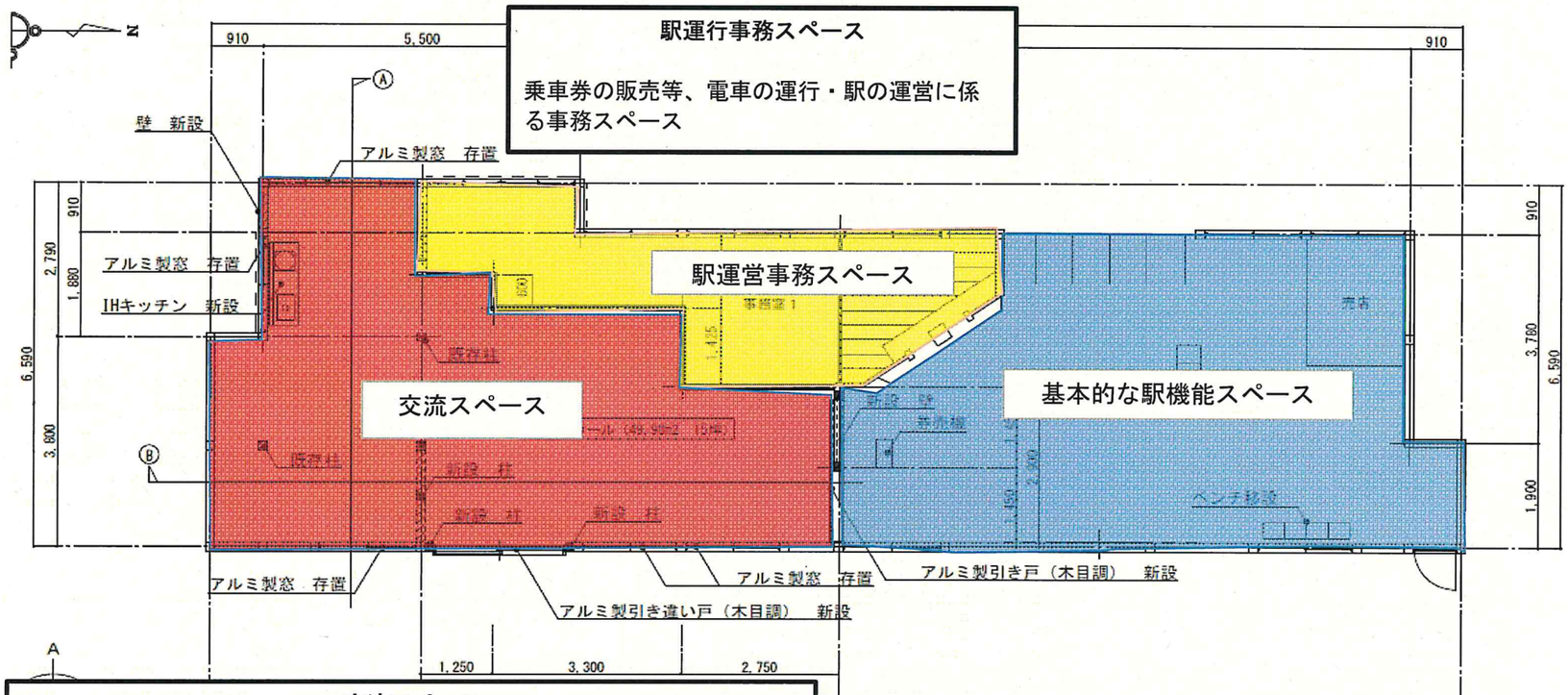
・活用用途に応じ、必要最低限の改修（主に内装改修：約50㎡）を実施する。

・駅を最も利用する中学生・高校生の学習スペース、気軽に“たまれる”場所とする。

・インターネットインフラとしてフリーWi－Fiの設置

・御所まちへの玄関口として、歴史、文化、地元産品の紹介及び観光情報の発信





交流スペース

駅事務所だった部分を改修し、駅利用者の利便性向上、観光や特産物等の情報発信により、駅利用者・観光客などの来訪者にとって魅力的な、普段から人が集まる空間とする。イベント等を行い、集まった人と地元住民との交流が生まれるスペース、駅に新たな機能を持たせるスペース

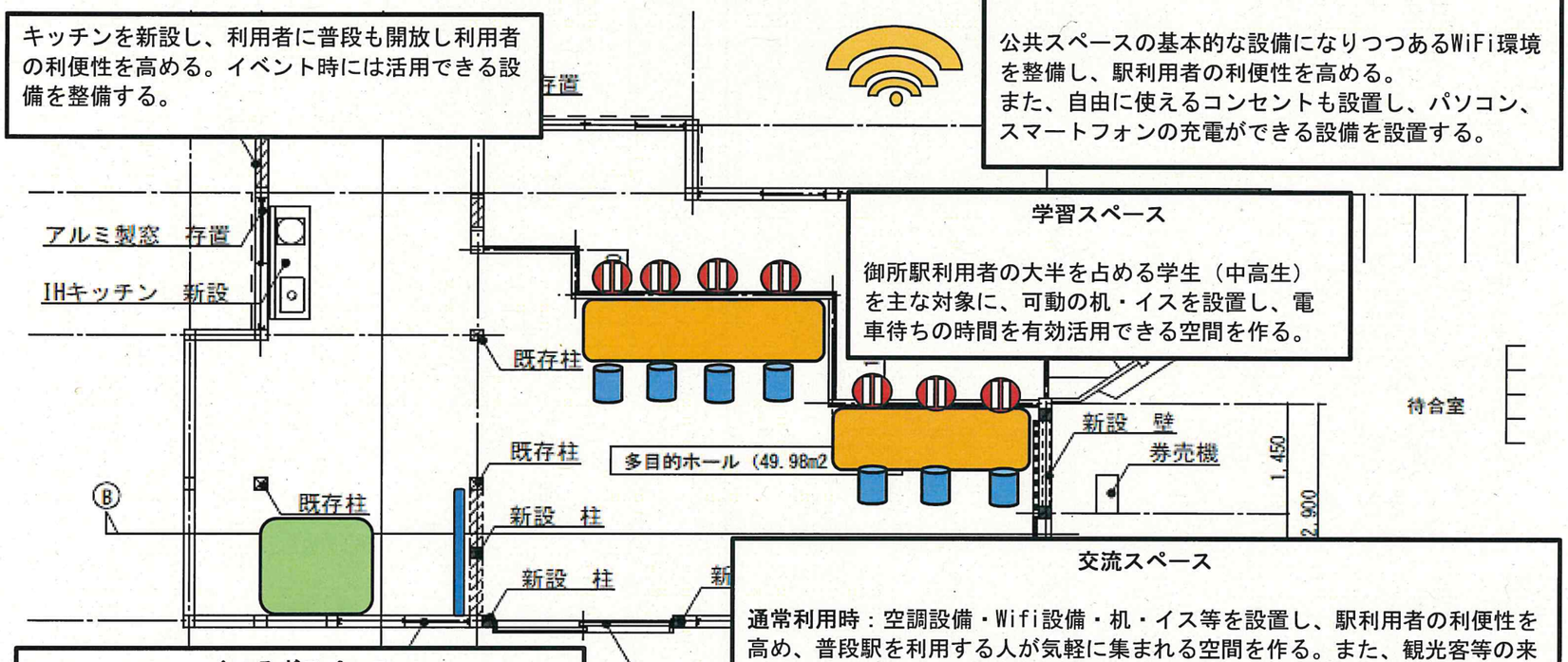
基本的な駅機能スペース

乗車券の販売機、待合室、改札口等、基本的な駅機能に係るスペース

キッチンを新設し、利用者に普段も開放し利用者の利便性を高める。イベント時には活用できる設備を整備する。

WiFi環境

公共スペースの基本的な設備になりつつあるWiFi環境を整備し、駅利用者の利便性を高める。
また、自由に使えるコンセントも設置し、パソコン、スマートフォンの充電ができる設備を設置する。



学習スペース

御所駅利用者の大半を占める学生（中高生）を主な対象に、可動の机・イスを設置し、電車待ちの時間を有効活用できる空間を作る。

くつろぎスペース

観光客等を主な対象に、椅子を設置しくつろげる空間を作る。柱間に観光チラシ等を設置できるラックを新設し、観光情報等を発信する空間を作る。

交流スペース

通常利用時：空調設備・Wifi設備・机・イス等を設置し、駅利用者の利便性を高め、普段駅を利用する人が気軽に集まれる空間を作る。また、観光客等の来訪者が、御所についての情報を得られ、休憩できる空間を作る。普段から人が集う空間を作り、交流が生まれるスペースとする。
イベント利用時：普段の机・イス等を稼働式のものとし、イベント時には広い空間を確保できるようにする。壁等で仕切らず一つの空間とすることで、地元住民のアイディア次第で柔軟に対応できる空間とする。